

平成29年度 第3回庄内町行政改革推進委員会 会議録

- 1 開催日時 平成29年11月8日(水) 18時30分～21時10分
- 2 開催場所 庄内町役場 西庁舎 第二会議室
- 3 出席委員 工藤隆、齋藤幸雄、佐藤正義、志田重一、大瀧礼子、大滝美香、長南美香
- 4 欠席委員 金井昌弥、斉藤徹史、小林洋平
- 5 説明員 【農林課】富樫課長、佐藤課長補佐兼農政企画係長 【社会教育課】上野課長、阿良主査兼文化スポーツ推進係長 【商工観光課】佐々木課長、松澤補佐兼観光物産係長、高梨主査兼新産業創造係長、日下部新エネルギー係長
- 6 事務局 小林情報発信課長 樋渡主査兼企画調整係長、佐藤

---

1 開 会 (18:30)

2 委員長あいさつ

3 協 議

(1) 平成29年度事務事業評価の外部評価(所管課ヒアリング)

(2) その他

4 説 明

第二次庄内町行財政改革推進計画の進捗状況について

**■庄内町農産物交流施設管理運営事業 【農林課農政企画係】**

【委員長】 これより所管課ヒアリングに入りたいと思います。状況が良く見えないということもあったので、その状況をお聞きしたいということも含めて、評価対象にしたという経緯があります。事業の目的、今後の状況、現状等の説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【説明員】 昨年10月オープンということで、この9月末でちょうど一年くらい経ちました。利用状況がどうかということですが、この事務事業評価シートの成果指標のグラフの3番目にレジカウントという項目がある訳ですが、レジカウントにつきまして、目標が、29年度は76000、30年度は96000カウントとなっております。29年度は年度途中ですが、昨年のオープンからどうなったかといいますと、11万8000を超えています。31年度の目標が11万6000となっておりますが、それをこの1年で超えているということです。27年度は道の駅はなかったが、それを比べると約5倍となっております。売り上げについても約4倍となっている状況です。今の状況ということではそのような状況です。

【委員長】 それでは質問を求めます。

【委員】 町から出ているお金が、28年度は130万円、29年度は360万円となっていて、増額しているが、これの理由は何か。

【説明員】 これは道の駅にしたことによって、トイレを24時間使えるようにしたり、国交省のインフォメーションも24時間使えるようにした部分での光熱費等の維持管理、警備保障等の管理費用が増えたので、その部分がプラスになっていることです。

【委員長】 売上が4倍になっているということだったが、金額にするといくらぐらいか。

【説明員】 以前は約年間2000万だったが、その4倍なので、8000万は超えています。ただ去年の

10月からということなので、28年度は、道の駅になっていない時期や休業時期も入っている。

【委員長】 年間に換算するとそのような感じになるということか。

【説明員】 年度ごとに区切ったものではなく正確な数字ではないが、そうなるということでございます。

【委員】 まだはっきりとした数字は出てこないということだったが、この委員会でも3年前くらいから題材にして協議してきた。現在開店して1年たったわけだが、いろいろと反省の部分や成果として挙げられる部分があれば、教えてほしい。

【説明員】 良かった点は、売上げが伸びたということです。レジカウントについても、当初目標からかなり増えています。それに比例して売上げも伸びました。地元の農産物がそれだけ売れたということは、担当課としても成果があったと思っています。人がたくさんいらっしゃるの、雇用についても前の倍とかなり増えています。そういった経済効果もあったと思います。1年経過してまずは順調に進んでいると思います。ただ指定管理者の中では、急に4～5倍の来場者に対応するため、日々反省し改善しながらやっているところです。まだまだこれから伸ばせる場所はあると思っています。1年間いろいろなご意見をいただいておりますけれども、そういったことを含めて、これからも改善しながら、道の駅として、産直として、地元の農産物をもっともっと売って行けるようになればと思っています。

【委員】 食堂は昼、はやっているように思う。ただ残念に思うのが、産直に品物があまりなく、はじきものが多い。また他産直と比べて値段が高いと感じる。イベント等があると確かに人が来ている。ただ日常的に買い物している人が少ないと思う。それを考えると、仕入れ方法、値段設定をもう一度見直す必要はないか。今後どうするのかを聞きたい。

【説明員】 そういったご意見も出ていると思います。9月に新潟に研修を行って、組合の方から改善をしなければならぬという話も聞いています。ただ担当課が店にずっといるわけではないので、分からない部分もあるが、夕方に行けばその日のものは売れてしまうので、品物はないかもしれません。ただ、はじきものがあるという件については、産直施設の性質上、ある程度はやむをえないと思っています。値段の付け方については、担当課が口出しできる部分ではないと思います。スーパーと産直との違いもあり、いろいろな意見をいただくが、運営している人達が、自分達でどうやったら売上げを上げられるかや客を増やせるかを考えてもらうことかと思っています。会議等に出席した中では、かなり活発な意見を出して運営している皆さんが考えているので、その方々がいろいろ相談しながらやっているのを、担当課では見守っている段階です。担当課として会議の場でお伝えするのは、安全面のことはいっています。とにかく数を増やすというよりも、信用第一で農薬の使用等に関して、きちっとしてもらい、信用を落とすようなことはしないでほしいと話しています。物をどんどん増やして売ればいいのかではなくて、そういったこともいっています。

【委員】 食堂と産直の売上比はどれくらいか。

【説明員】 売上の割合で言えば、食堂は産直で1/3～1/4位となっています。食堂は待ち時間があるので、人も入っているように見えていると思います。産直は必要なものを買って帰るだけなので、人がいないように見えるかもしれませんが、売上げとしてはそのような割合です。

【委員長】 農産物の価格は、生産者がつけているのか。

【説明員】 価格自体は、生産者が決めます。ただ生産者と組合で相談して決めている場合もあります。生産者だけで決める場合と、組合と話し合っただけで決める場合の2種類あります。風車市場は総額表示になっているので、見た目少し高く見えると思います。

【委員長】 赤字か黒字かが一番気になる。協定の中で、黒字が出てきたらどうなるのか。

【説明員】 赤字か黒字かは指定管理者の決算の話で、協定の中では黒字の時にどうするかということはない。ただ利用料金は施設の管理運営に使うということになっています。その辺につ

いては、利用料金は売上が上がれば増えていく仕組みにはなっているので、施設の管理に還元されます。

【委員長】 基本的に町の施設なので、補修等は町が負担するのか。

【説明員】 光熱費や燃料費は、一定額の査定を行っておりまして、道の駅という側面もある施設であることから、その分の電気料の一部は町が負担しています。以前の施設と違うのは、空調が完備されています。その分の費用は結構かかりますので、一定程度費用負担をしています。

【委員長】 指定管理先の収支はどうか。

【説明員】 平成 28 年度においては、±ゼロです。産直が道の駅になって、人がたくさん来て、売り上げも伸びています。売り上げ増ではなるが、雇用も増やしているので、それなりに経費も掛かっています。赤字にならないようにうまくやっています。

【委員長】 民間でいえば、赤字となる。建物の費用は会社で負担する。それらも含めて黒字にならないといけない。なぜ黒字がいいかといえば、それはそれだけお客さまから利用していただいた、指示されたという表しだと思う。ですから、民間で今の状況は赤字であると考えられる。

【委員】 第三者として見ると、いかに外部から人を呼び込めるかが問題だと思う。現在の体制がそのようになっているかという、うまくいっているとは言えないと思う。産直ではあるけれども、他のみやげものも置いて、大型バスも泊まれるくらいの駐車場の整備をしてはどうか。品ぞろえの問題もあるが特徴のある施設にしてもらいたいと思う。オープンして 1 年くらいではあるが、今後より一層の努力をしてほしい。また売上を上げるために、周知をもっとしてはどうか。

【委員長】 スペースの余裕はあるのか。

【説明員】 指定管理で行っているので、担当課がどこからものを仕入れて売れということをお話することはできないと思います。産直施設ですので、生活用品や肉等を置くわけにはいかないと考えます。

【委員】 それに固着しない方がいいのではないか。

【説明員】 産直施設として作っていますので、地元こだわって販売するのはいいと思います。

【委員長】 産直施設でも、庄内町のものだけと限定するものではないのではないか。

【説明員】 市場から仕入れれば世界中の野菜を仕入れることはできるが、そういった八百屋を目指せというのであれば、すぐにでもできるが果たしてそれが適切なのかと思います。

【委員】 みやげものはいろんなところのものを置いているのではないか。

【説明員】 置いています。地元のものだけを置く施設にすべきなのか、なんでも置く施設にすべきかその辺はどうなのかと思います。一番は地元の農産物を売ってもらい施設であると考えています。

【委員】 それだけだとどこにでもある施設なので、それ以外のものを売っていかないと売上は上がっていかないと。

【委員】 維持費等も含めて黒字を出すのは至難の業で、オープンして 1 年で±ゼロだというのは立派だと思う。ただ行列ができる状態でそれができてはいない。これから伸ばすにはそのような点も他の施設を見習ってはどうかと思う。

【説明員】 並ぶまで売れると午前中で物がなくなるということもあり、夕方まで品ぞろえを維持するためには、難しいと思います。

【委員】 品物がそろっていれば、ロコミで主婦層も買いに行くと思うので、品揃えを維持するのは大事だと思う。

【委員長】 たいいていの産直施設は、午前中なくなれば、午後に再度出荷していると思う。

【説明員】 今、オープンして 1 年しかたっていないので、その体制は不足していると思います。ただ、その出したものが安全に売れるものなのかという問題もあると思っています。出荷を 1 番に考えて、農薬の面等安全なのかという確認がとれないものを出荷することがないよ

うにしたいと思います。

【委員長】 今、どれくらいの会員が出荷しているのか。

【説明員】 米も含めて野菜を出しているのは60～70弱です。会員そのものは90～100の間です。

【委員長】 その人数だと冬、出荷が大変だと思う。

【説明員】 そのような議論もしています。去年は少し考えて、冬キャベツを栽培し、店頭に並べるようにしていたようです。今年も冬対策は去年よりも力を入れて考えているようでした。

【委員長】 指定管理団体の段階で、前を向いて進んでいける状態になると本当にいいなと思う。そのためには、利用者等の意見をどんどん聞いて改善して欲しい。この事業に限らず、指定管理を導入している施設すべてだが、指定管理団体に町がまかせっきりになってしまうことが心配している。そのような状態になっては困る。

【説明員】 この産直施設については、農林課としては地元の農産物を販売して売り上げを上げてもらいたいというのが一番ですので、まかせっきりということではないです。いかにこの施設を利用して販売していただくかということですので、会議等へも出させていただいて、いろんな意見を出し合っている状況を聞いている段階です。ただ安全や信用の点だけは話させてもらっています。野菜を作っている人や売っている人が一生懸命考えているとみています。

## ■民俗資料館運営費 【社会教育課文化・スポーツ推進係】

【委員長】 事業の目的、今後の状況等説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【説明員】 施設や利用状況について説明

【委員長】 開館の時期は条例で決まっているのか。

【説明員】 条例で決まっています。

【委員長】 桜まつりの時期は開館しないのか。

【説明員】 地元の方々から桜まつりの時期に開館していないのはもったいないと前から言われてはいるが、なかなか対応できない状況にある。ただ今後地域のボランティアの協力も得られることになったので、来年度は開館できるのではないかと考えています。

【委員長】 閉館している期間が長いので、桜まつりの時に開館するということをポスター等にのりするのも効果的だと思う。

【委員】 今度上幅集落の方々から、お手伝いを願うことになったということだったがいつ決まったのか。

【説明員】 社会教育委員をされている方から、会議がある度に桜まつりの時期に開館して欲しいという意見を出していただいていたので、それで今年度企画展を開催する際に声掛けをさせて頂いて協力を得る事が出来ました。地元の方からの協力を得なければ存続は難しいと思っておりましたので、地元の賛同を得られてよかったと思っています。

【委員】 夏使おうとしても、とても暑くて使えなかった。冷暖房の完備等考えれば、細かい施設の管理についても出てくると思う。その場合の経費の捻出は可能なのか。いかにして集客するかも含めて、維持管理についてどのように考えているか、その点についても今後検討していただきたい。

## ■風車村管理運営事業・農林漁業体験実習館運営事業 【商工観光課新エネルギー係】

【委員長】 事業の目的、現在の利用状況、今後の状況等説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【説明員】 両施設について、事務事業評価シートをもとに説明。

【委員長】 老朽化に伴う施設の整備費がかなりかかってくるとあるが、何にかかるのか。

【説明員】 両施設について雨漏りであるとか、屋根が一部剥げてきているとか、手すりやドアの修繕が必要となっています。

【委員長】 風車村にある風車の復活についてはどのように考えているか。

- 【説明員】 今、あの土地を使って再生可能エネルギーで展開が出来ないか、民間から提案いただいている状況です。
- 【委員】 老朽化している割には、利用している方の人数が多いと感じた。ただ両施設が関連しているかという、そうでない気がしている。狩川城址構想もあるので、将来的に笠山をどうしたら一体的な観光施設にできるかということを考えて場合には、北楯神社も含めて観光ルートの整備等をしてはどうかと思う。
- 【委員長】 狩川城址構想は今どうなっているのか。
- 【説明員】 具体的には、観光振興計画のアクションプランに記載されています。そこには、眺望の改善や看板の設置等、城址構想といっても改善的な内容になっています。それについては、年度ごとに実施をしてきており、イメージされるような狩川城址という形とは異なっています。計画に入っている内容についてはほぼ改善が図られています。今年度新たに観光振興計画を策定する予定ですので、その中でどのような形にするか現在検討中です。
- 【委員】 なかなかイベント等がないと、笠山まで上がる機会がないのではないかな。観光ルート等があれば、人が来る仕組み作りが図られるのではないかな。
- 【説明員】 ルートの部分でいうと、そのような意見はいただいているが、遊歩道等を整備しようとすると多くの地権者がいるため、なかなか困難な現状です。
- 【委員】 それを解決していかなければだめだと思う。民俗資料館では地元の方々の協力を得て進めていくことにしているようだった。この事業も地権者等の問題があるにしても地域と協力して進めてもらいたい。
- 【委員長】 平成 27 年度も、風車村の管理運営事業について評価していた。当委員会でもヒアリングを実施した。その中で、周辺の環境整備を進めて、各種イベントを開催しリピーターを増やす事業を展開している。また観光振興計画に風車村や楯山公園一帯をどのように整備していくのか方向性を定めている。民間事業者による風力発電の実施希望の話もある。風車村を観光として誘客するために、観光協会の専門部会で検討している。という話をしてもらった。それを受けて、三次評価では、風車村周辺の環境整備を進め、自然体験ができる魅力ある環境作りを進めるために、近隣施設も含めた周辺地域のランドデザイン、狩川城址公園構想を策定することと意見を出した。28 年度に担当課から意見に対する回答をもらったが、その中に城址構想の中で大きく進めていきたいとあった。
- 【説明員】 それが先ほど申し上げたアクションプランになります。その中に 5 項目ほどの記載があり、眺望の改善や看板の設置が記載されています。狩川城址公園構想は積極的に進めているが、ハード面の整備ではなく、今ある施設を有機的につなげながら、散策していただくということを計画しています。その一つとして、生い茂っている木を伐採して楯山公園の眺望をよくしたり、看板を設置しています。他には、駅からハイキングを実施しています。去年も今年も楯山公園周辺を散策していただいた。残念ながら地元の方々から参加はしていただいけませんでした。地道に多くの方々から楯山公園一帯に足を運んでいただける事業を展開しています。来年度におきましても、駅からハイキングの他に別の事業も企画しています。少しずつではありますが、町内外の方からお出でいただく企画を順次しているところです。狩川城址公園構想として一つの計画を立てるのではなく、今年度策定される観光振興計画の一部として盛り込んでいきたいと思っています。
- 【委員長】 当時の委員会の意見としては、ハードではなく、ソフトの面で、一帯を将来どのようにしていくかということで出したもの。
- 【説明員】 散策ルートとしてパンフレットを作って、狩川駅に置くなどしています。まだ広がりは見えてはいませんが、皆様から来ていただけるよう努力はしています。
- 【委員】 庄内町の中でも立川地域はとて多いと昔からいわれている。立川町時代は、町でバス

を出して観光地を周るようなツアーをしていた。そのようなツアーを行ったりして地元の人から来てもらうようにしてはどうか。

【説明員】 観光全体のごことで申し上げますと、今の観光については従来の各史跡等を見るというよりは、体験型観光に変わってきています。町としても庄内町の小さな旅として、今まで日の当たらなかった観光施設に光を当てて、体験していただくようなツアーを実施しています。まだまだ宣伝不足な部分もあるかと思いますが、年間5～6回行っているところです。いつも定員を超えるくらいの人気のツアーではございますが、周知不足ということでご意見をいただいたので、これからもっともっと情報発信を行っていきたいと思います。担当課としても、地元の人にも楽しんでもらいたいという視点は持っておりますので、その部分を今後も考えていきたいと思います。ただ昔のように、バスで顎足つきでという形は難しいと思いますが、参加しやすい内容にしていきたいと思います。

【委員】 地元でダムや高山植物を見に行く等の企画だと、かなり高齢者が参加している。それらにニーズがあるということであれば、ぜひとも企画をお願いしたい。

【委員長】 27年度に5500万円の決算額となっているが、何か大きい事業を行ったのか。

【説明員】 これは、ウィンドームの遊具の隣に国交省の補助事業で太陽光発電を設置しました。あとは街路灯を設置しております。その費用で増大しているということです。100%の補助事業です。

## ■温泉施設管理事業 【商工観光課観光物産係】

【説明員】 事業評価シートをもとに説明。

【委員】 年配者の休憩場所が少ないと感じている。また梵天やアピアとのつながりがないと思う。買い物をしてお風呂という感じもない。客層が異なっているのではないかと思う。今後休憩所を作るということは考えていないのか。

【説明員】 そういった部分の改修は考えていません。

【委員長】 入浴者数の減少をイグゼあまるめはどのように考えているのか。

【説明員】 入浴者数の減少については、近隣の同施設についても同じような感じですが、町湯についての減少については、数値を抑えながら男女比等の分析を行っていますが、直接的な原因までは突き止められていません。もっと積極的に外に出て他市町村の方々にPRしていただく等を担当課としても強くは求めているが、まだまだ営業努力が足りてないと感じています。

【委員長】 現在、指定管理料は発生していないが、今後発生する可能性はあるか。

【説明員】 指定管理者については、平成31年度で1回目の期間を終えますが、その部分を含めまして、来年度協議する必要があると思います。イグゼあまるめ自体は黒字経営ですので、今すぐ指定管理料が発生するという話をしてはおりません。

【委員長】 イグゼあまるめが全体的に儲かっているからこの部分は赤字でいいということにはならないと思う。

【説明員】 確かに町湯の経営は大変厳しいところではございます。しかしながら、町湯そのものは町民の皆さんからたくさんの要望があって建設した施設です。収益を生むことも大事ですが、町民の方々の健康維持と生きがいづくり、そして雇用も生まれているので、そういった広い意味での目的達成をしているという意味では、成果があると考えています。イグゼあまるめの方で、赤字でいいと思っている訳では当然ないが、イグゼあまるめはいろいろな事業を行っています。各部門で赤字や黒字がある中で、全体的に黒字であるうちに、赤字解消に向けて考えているところです。今年の株主総会でもそのような考えを社長が表明していますし、毎月の取締役会でも毎月の状況を取締役の皆さんで報告を受けながら考え、改善に向けて動いています。ただ、なぜ町湯の利用者が減ってきている傾向にあるの

かという部分は、根本的な原因がつかめていません。

- 【委員】 利用客の多くは、高齢者だと思う。高齢者が立ち寄れる、利用できるようでないと利用者増加は難しい。現在の施設でこれから伸ばそうというのは厳しい。
- 【委員長】 町湯も温水プール同様に健康づくりとして力をいれていると思う。指定管理者に委託したからいいという考えは無いと思うし、町としても利用客が増えるように力をかけていく必要があると思う。
- 【説明員】 その通りだと思います。担当課としても打合せを行っております。商工観光課としては、取締役会にも出席させていただいて、状況把握と改善方法について一緒に考えてやらせていただいております。
- 【委員】 食堂についても同じことだと思う。そちらも売り上げを上げていかなければならないと思う。最近出前をしてくれるところも少なくなってきたので、昼食の出前を行うというような売り上げ増に繋がる工夫が必要だ。
- 【委員】 福祉入浴券については、27年度無料、昨年度 1/2 負担であったが、今年度また無料にして枚数を半減させたと思うが、その影響はないか。昨年度と今年度の動きはどうなっているか。
- 【説明員】 27年度 28年度については、あまり人数の変化がなかったと思います。今年度を見ると減少しています。100円イグゼあまるめが負担して、利用者は無料で入っています。このことがあまり知られていないということもあって、広報でPRする等しています。

## ■新産業創造館管理事業 【商工観光課新産業創造係】

- 【説明員】 事業評価シートをもとに説明。
- 【委員長】 歳入と歳出の見方を教えてほしい。
- 【説明員】 歳出について、施設管理に係るものとしては、管理人報酬、光熱水費、電話料、警備保障、共同利用加工場に係るリース料等があります。28年度の歳入につきましては、1967万561円となっております。ただ管理収入でまかなわれていますので、一般財源はゼロとなっております。
- 【委員】 オープンして4年目ということで、最近成果に対して、広報等に載ってこないという感じがする。前は、講座等も行っていたような気がする。
- 【説明員】 クラッセ宅配便として掲載はしている。講座については、24年度～27年度まで国の補助事業を活用し事業を行っていました。平成28年度からは6次産業化推進の方は事業を継続して進めています。
- 【委員】 以前、奨励した割には、実態としてどのような企業が増えてきている、売り上げがどうなっている等あまり見えてこない。
- 【説明員】 あくまで施設管理の事業となっておりますので、各テナントの売上の方は町で把握はしておりません。
- 【委員】 6次産業に取り組んで、事業を起こして販路拡大のために、商工会に入るという方も結構いるが、6次産業の難しいところは、生産から加工して販売までを少人数でしなければならないという部分。加工を一生懸命すると売り先がないという状況がある。これは成果が出てくるまで長い目で見えていく必要があると思う。クラッセが出来たから、売ることができたという話も多く聞く。
- 【委員長】 貸オフィスの賃貸料は安くないのか。
- 【説明員】 部屋ごとに賃貸料が条例で決まっている。一番せまいところで41000円、一番広いところで326000円となっております。
- 【委員長】 他市町村と比較してどうか。

- 【説明員】 今、貸オフィスは満室ですが、そもそもの目的は起業や創業を支援するということがあります。そのような意味では、インキュベーション施設として、当初の固定経費を減らすという目的で利用料が安価となっています。新産業創造館に係る経費については、基本的に利用料でまかない、町の負担をなくしようということにしています。クラッセで町がもうけるという考えではありません。空室があれば、町の持出しがある訳ですが、満室の状況ですので、計画通りで推移しています。民間と比べて、安くはなっていると思いますが、目的を考えてご理解いただきたいと思います。
- 【委員長】 貸オフィスに入っている企業は、目的に合っているのかは疑問。
- 【説明員】 一応5年毎に更新はしています。
- 【委員長】 民間は、その建物の改修費用や税金がかかる分も考慮して考える。
- 【説明員】 雇用の部分では相当の実績となっています。
- 【委員】 当初は町民を数名雇用するという話もあったが、今はどのような状況か。
- 【説明員】 最初に入られた企業については、景気の関係もあって利用されていません。
- 【委員長】 おおよその雇用はどのくらいか。
- 【説明員】 手持ちの数値はありませんが、貸オフィスを除いた実績として平成28年度19人となっており、そこで活性化も図られています。また共同利用加工場でも219名ほどの登録者もいらっしゃいます。自分で開発をして商品化して起業したいという方も多くいますが、設備投資の部分を低価格の町の施設を利用させていただいて、ステップアップしてもらいたいと考えています。オープンして4年目ということもございまして、起業した方は若干数となっています。新産業創造協議会の方で、開発したいが自分一人では難しい方へのアドバイスや相談を受けています。そこで安心して利用させていただいている面と今まで一人で利用させていただいた方も、交流が生まれているので、これから発展の余地があると考えています。クラッセのいいところは、加工場で作った商品をあっでばで売れるということだと思います。作って終わりではなく、反応を見れるのはウリだと思っています。
- 【委員長】 やくけっちゃーのはどのような状況か。
- 【説明員】 まずまず入れ込みがあります。ランチも結構混んでいます。

#### 4 説 明

第2次庄内町行財政改革推進計画の進捗状況について  
出された17事業について、次回まで委員が資料を確認することとした。

#### 5 その他

第5回行政改革推進委員会 平成29年11月28日（火）18：30～ 役場西庁舎会議室

#### 6 閉 会

(21:10)